

## 8月の主な論点

### ～ 家族の未来、住まいの未来 ～

#### 1 家族の形はどう変わるか

産業、社会の構造変化に従って形を変えてきた家族。20世紀の潮流は、工業化と都市化による核家族化だったが、社会の基調が「成長」から「成熟」へと変わる中、私たちの社会の家族像は多様化し、今や「個人化」とも言える動きが進んでいる。

産業や地域の未来をどう見通すかということと不可分ではあるが、家族の形は今後どう変わるのか。未婚化と高齢化による単身世帯の増加が見込まれる中、家族は単に「個人化」していくのか、別の形で結びつきを強める動きは起こるのか。

#### 2 家族の機能はどのように変化するか

家族の形が変わることで、これまで家族が担ってきた機能（出産、育児、教育、生産、消費、娯楽、安寧、充足、介護、看取り、社会参加等）はどのように変化するか。十分果たせなくなる機能があるとすれば、その機能は誰がどのようにして担うのか。

また、人口減少にどこかで歯止めをかける必要があるとすれば、家族が担う出産、育児の機能をどうやって維持回復するか。出生率の回復はいかにして可能なのか。

#### 3 住まいはどう変わるか

家族の形や機能が変わることにより、県民の住まいと住まい方は今後どう変わるか。

毎日決まった場所に通勤する働き方が当たり前でなくなる中、住まいの流動化が進み、マイホーム主義が過去のものとなる可能性もある。こうした社会変化を踏まえ、住まいの未来をどう考えるか。住まいの変容は、街の姿をどう変えるか。

#### 4 住まいの保障をどうするか

雇用の不安定化、セーフティネットとしての公的賃貸住宅の先細りなど、県民の住まいを巡る環境が厳しさを増す中、住宅政策の今後の方向性をどう考えるか。相対的な貧困にある人々も含めてすべての県民が安全で快適な住宅に住める社会をどう作るか。特に「持ち家」に依存した住まいの保障のあり方をどう変えていけばよいか。その中で人口減少に伴い大量発生する空き家をどう活用していくか。